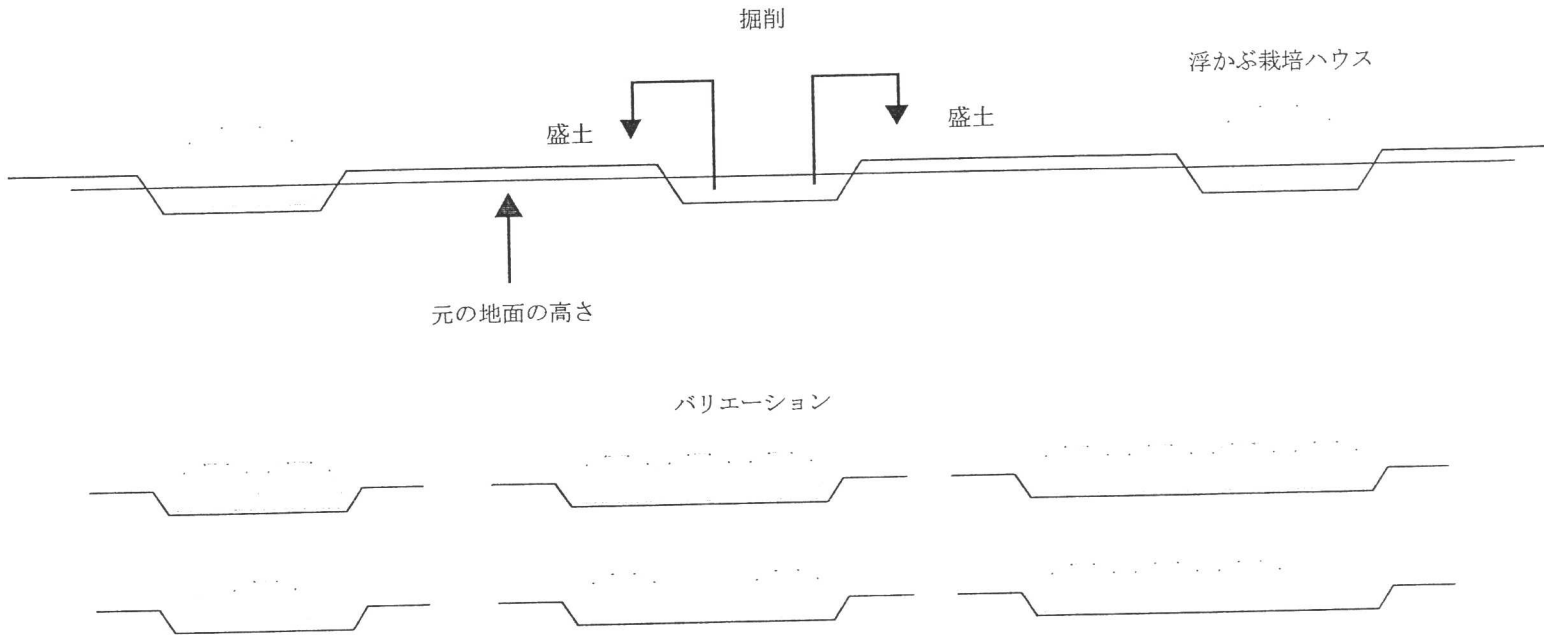


2004年7月1日

水位変動に対応する農地の提案

石井 良太



専門外の立場から口出しするのは恐縮ですが、
水に浮かせることは水位変動に対応する有効な手段だと思います。

琵琶湖岸の農地が水位上昇に適応できれば、魚の産卵にも好都合だと思し、
宇治川にも無理をさせずにすむでしょう。

流域の矛盾を河川技術者に負わせてきた結果、河川が現在のようになったのだと思います。
そうだとすると、いくら住民の意見を反映させても河川整備だけでは流域の問題を根本的に
解決することはできないでしょう。
河川技術以外の専門分野の技術者も流域のことを視野に入れた提案をするべきではないでしょうか。

流域委員会の役割として、河川以外の専門家に対してもう一度問題を設定しなおすこと、
それに対する提案が局所最適化に陥らないように調整すること等が必要となるのではないのでしょうか。
流域委員会としてではなくとも、委員には大学の先生もいらっしゃるから、他の分野の先生にも
流域の課題を突きつけられたいと思います。例えば「水位変動を前提とした街づくり」というような
課題を建築の学生に出せば、面白いアイデアがいろいろ出てくるはずですよ。

自分の乏しい能力で案を作りながら沸き起こってくる疑問があります。

なぜ、建設コンサルタントは有効な代替案を提案しようとならないのでしょうか。
なぜ、防災研は災害の詳細を知識化し一般に普及させないのでしょうか。
なぜ、河川管理者ばかり責られるのでしょうか。